

令和5年度 アレルギー疾患医療連絡協議会 議事要旨

日時 令和6年3月18日(月)

18時30分から20時まで

場所 秋田県庁本庁舎7階71会議室

(オンラインとのハイブリット開催)

事務局	1 開会
課長	2 あいさつ
	(以下、中山会長が議長となり議事進行)
事務局	3 報告 (1) アレルギー疾患対策について(資料1により説明) 中山会長よりアレルギー疾患医療中心拠点病院(国立病院機構相模原病院)とのオンライン面談について情報提供。令和6年度にアレルギー疾患医療中心拠点病院から本県にスタッフが派遣され、研修が実施される(協議会終了後、面談の議事要旨を各委員へ配布)。
議長	何か質問等はあるか。
植木委員	2月17日にアレルギー電話相談会を我々と鷺谷委員、山田(瑛)委員で開催した。県にも広報に御協力いただいた。この相談会は、県内の一般の方が主治医にはなかなか聞けないようなことを電話で相談してもらう初めての取り組みだったが、食物アレルギーや小児スキンケア、運動誘発性食物アナフィラキシーの疑い、好酸球性中耳炎等について、各地域から約4件の相談があった。御協力いただきありがとうございました。
議長	重要な企画だと思うので、もっと周知するのがいいと思う。
植木委員	来年度は、周知方法について、委員の皆様や県と相談したい。
議長	県や医師会のネットワークを活かすと良いと思う。 オブザーバーの先生にも御協力いただきたい。
事務局	(2) 災害時用のアレルギー対応食の備蓄状況等について(資料2により説明)
議長	地震や大雨の時は、備蓄状況の周知が重要になると思う。アンケートの回答で「周知する必要性は高くないと判断した」とあるが、災害に実際遭うとアレルギーを持っている人たちにとっては、不安が相当ストレスになると思う。能登の地震や昨年の大雨被害で他人事ではなく感じた人も多いと思うので、周知をしたほうが良いと思うが、事務局としては如何か。

総合防災課	周知することも重要だと思う。県では、昨年の大雨被害を踏まえて、市町村と意見交換を行いながら備蓄計画の見直しを行う予定である。その際に、改めて市町村に今回の御意見について伝えたい。
植木委員	この調査結果を市町村にフィードバックする予定はあるか。
事務局	フィードバックする予定である。市町村はこの結果を踏まえて、備蓄状況を見直してほしい。
議長	この協議会の議論も含めて、フィードバックすると非常に有効だと思う。
鷲谷委員	昨年度も同様の調査を行っていただき、備蓄状況について把握できるようになった。 炊き出しについても検討してほしい。昨年の大雨災害の時、五城目町ではボランティアが炊き出しを行った。誰がどのように炊き出しを行うのかを道筋を立てないといけないと思う。
議長	報道を見ていると、機動力が乏しい所は孤立してしまう。シミュレーションしておかないと、せっかくの備蓄が活かせない。この調査をフィードバックする時に、具体案も一緒に市町村に提案すると良いと思う。
事務局	(3) 秋田県アレルギー疾患地域医療実態調査について(資料3により説明)
議長	今回、初めて実態調査を行い、画期的なことだと思う。毎年続けていくと思うが、結果が改善されるように有機的に動いていきたい。秋田市にいと秋田市のレベルで物を見てしまうが、県北や県南に行くと重症の喘息患者が来たりするので、均てん化を図ることが重要だと思う。内科の医師は多いので、喘息はある程度診れると思うが、小児や好酸球性食道炎、薬剤アナフィラキシーなどは対応が難しいことがあると思う。 オブザーバーの先生に御意見や御要望を伺いたい。
佐藤オブザーバー	県南を全般的に把握できているわけではないが、重症者が救急で運ばれてくるというような印象は持っていないので、アレルギー専門医は少ないが、専門医に限らず、各病院や診療所の先生が頑張っていると感じている。
議長	大学病院からの外勤によって支えられている部分もあると思う。 日常レベルの診療が均てん化されて欲しいと思うが、昔は吸入ステロイドを気にして、ムコダインばかりを処方していた印象だが、現在はどうか。
佐藤オブザーバー	現在は、吸入ステロイドを怖がることは無く、昔とは違う印象だと感じる。
議長	先日、全国のアレルギー講習会を Web で受講したが、消化器系のアレルギー疾患や薬剤アナフィラキシー、運動誘発性アレルギーなどの知見がどんどん増えている。最新の情報を均てん化するような地域のネットワークがこれから求められると思う。

鈴木オブザーバー	県北で呼吸器疾患、主に成人の喘息に携わってきたが、小児喘息が寛解した後の 20 歳以上から中年で、感染をきっかけとした喘息発作が多いが、その時点では肺機能が低下している症例が多い。思春期の喘息から成人になってからの低肺機能の患者さんへの対応が問題だと感じている。
議長	COPD(慢性閉塞性肺疾患)への進展も問題だと思う。背景には、たばこを吸っている人が結構いるのかもしれない。その拾い上げ、日常生活の指導も重要ではないかという御意見かと思う。
千葉委員	実態調査の結果はそのとおりだと思う。しかし、この状況を脱するのは難しいと思う。小児科医が足りない。小児科医が県内で食物アレルギーを勉強できる場所は、中通総合病院ぐらいしかないので、後期研修医の先生が 2 ヶ月ぐらい山田委員と一緒に勉強をして、基本を少しでも身につけられればいいと思う。
議長	アレルギー疾患医療中心拠点病院との面談でも、本県で実施する研修では、他職種の指導を行いたいとのことだった。それとは別に、小児科医の中でアレルギーのプロフェッショナルを目指す人が出てきて欲しい。東京慈恵会医科大学附属病院で勤務していた時、関東で食物アレルギーの経口負荷試験を行っている医療機関をチェックしたが、ちゃんと実施しているのは、ほとんど小児科であった。成人科で食物アレルギーの診断システムを実施するのは、数年に 1 例あるかどうかなので、スキルが定着しない。食物アレルギーで困っている成人の患者さんが、ずっと小児科に通うわけにもいけないので、成人のアレルギー科で診療する必要があると思う。
山田(武)委員	実態把握調査に回答していないアレルギー専門医も沢山いる。喘息を一生懸命診療している先生や副鼻腔炎と一緒に診療している先生も沢山いる。また、PFAS(花粉－食物アレルギー症候群)は、花粉から始まっていることが証明されてきているので、耳鼻科の役割も大きいと思っている。
河野委員	拠点病院である大学病院の皮膚科にアレルギー専門医はいないが、薬剤アレルギーや金属アレルギー、食物アレルギーの一部は皮膚科専門医が対応している。
鈴木オブザーバー	県北では、薬局にロイコトリエン受容体拮抗薬の在庫が少なくなっている。
小松委員	薬剤師会でも把握している。原因は不明だが、薬が手に入らなくなっており、薬局は薬不足に悩んでいる。咳止め系、痛み止め系、ロイコトリエン系が手に入らなくなり、抗アレルギー薬もメーカーによっては手に入らない。少し前までは、ロイコトリエン受容体拮抗薬も手に入ったが、今は手に入らなくなり、継続治療されている患者さんに対して、どのようにすればいいか悩んでいる薬局が全県で多い。

議長	今年はアレルギー患者が多いというのもあると思う。 県で指導できないか。
事務局	県では、災害協定で備蓄すべき薬品等については、企業と契約を結んでいる。 特定の薬不足については、恐らく協定の範囲外であり、一定量を優先的に確保するのは難しいと思う。
議長	その通りだと思う。津波が街に入ると、津波が引いた後に、海底の泥が粉塵となって喘息まがいの気管支炎が発症することや、感染症が発生することが証明されているので、それに対しての備蓄はあっていいと思う。今回の薬不足については、皆さんが意識を高めて、不必要な消費を抑えることや、継続的に使用している重症の患者さんに重点化するというような取り組みが必要だと思う。そのような意味では、本協議会で県北からアラートが鳴り、それを各委員で共有できたことが重要だと思う。
事務局	4 協議 令和6年度アレルギー疾患医療提供体制整備事業について 「講習会や市民向けイベントの予算化について」 植木委員からの議題提供。事務局から県の予算を説明。
植木委員	他県では、アレルギー診療の均てん化に向けた講習会を中心拠点病院が中心にやっている。先ほど、小児科のアレルギーの話でもあったが、喘息やアトピー性皮膚炎、好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など、薬がしっかりあるところは製薬会社が入って勉強会ができる。しかし、食物アレルギーについては、学ぶ機会を作ることが難しい。アレルギー科に限らず、県内の食べ物や消化管などを診療している開業医の先生に対して研修をできれば良いと考えている。予算的に、Web 講演になるかもしれないが、実施可能であれば、実施した方が良いと思う。
議長	県の予算を有機的に使いたい。来年度は、アレルギー疾患医療中心拠点病院から小児の食物アレルギーについて、スタッフを派遣してくれるので、これを機に、来年度は食物アレルギーを本格的に考える年度にし、イベントを実施するといいと思う。
植木委員	素晴らしいと思う。
議長	イベントを実施した際は、アーカイブ化することが大事だと思う。 例えば、動画配信サイトで確認できるようにすると、今後の財産になると思う。
山田(瑛)委員	私は宮城でアレルギーの研修を受けたので、アレルギー疾患医療中心拠点病院から派遣された先生に研修の講師をしていただき、県内でアレルギーを診療する先生が増えて欲しい。
議長	山田委員もアレルギー疾患医療中心拠点病院と面談を実施したと思うが、状況を報告してほしい。
山田(瑛)委員	小児科のスタッフが少ない現状をお伝えしたところで、なかなか厳しいということだった。

議長	本県には、アレルギー領域でメジャーな先生がいる。アレルギー疾患医療中心拠点病院も、上手くできると感じてくれたと思う。 また、NPO 法人アレルギーを考える母の会が主催した研修会では、私も挨拶を行ったが、行政の看護師や保健師、栄養士などの他職種が参加し、小児のスキンケアなどを学んだ。このような取り組みもアーカイブ化すると良いと思った。 企画を上手に繋いでいくことが重要だと思うので、県にも御協力いただきながら、実施していくことが重要だと思う。
山岡委員	食物アレルギーの研修会を実施し、アーカイブ化することは良いと思う。看護協会でも、会員への周知という形で協力できる。
議長	アレルギー疾患医療中心拠点病院による研修について、早めに連絡を取って、具体的に進めていきたい。
河越委員	勤務している人はなかなか時間が取れないので、研修会を実施し、アーカイブ化することは良いと思う。栄養士会としても協力していきたい。
議長	もう少し予算があると、アーカイブ化だけではなく、オブザーバーで参加していただいている先生がその地域でオーガナイズして何か実施できると思う。 何か質問等はあるか。
議長	特にないとのことなので、本日予定していた議事は全て終了したため、協議を終わりたいと思う。進行を事務局にお返りする。
課長	5 その他 コロナの時は、東北では本県だけが、自宅療養者に食料品を配送する際に、業者に成分まで調べてもらい、アレルギー関係の物を除いており、本県のやり方が良いという話を聞いたことがある。災害時の備蓄について、全てをアレルギー対応にすることは難しいと思うが、災害発生時には県や市町村でアレルギーのことを意識することで、避難している人にとって良い結果になると思う。備蓄状況の調査結果を市町村に配布する時に、そうしたことを意識づけたいと思う。
鷲谷委員	実態把握調査の中で、県で「アレルギー疾患対策を行っていることを存じていませんでした」という回答があり、周知不足だと思う。他県では、アレルギーを持っていない人でも、自分の県ではアレルギー拠点病院があることを報道や新聞、広報で知っている。今後、協議会への新聞などの取材受け入れや、秋田ビジョンで周知することなど県で検討して欲しい。
事務局	機会があるときに、PRしていきたい。

議長	美の国あきたネットにあげるだけではなく、オープンリソースとすることが重要だと思う。患者さんだけではなく、小児のアレルギーに興味を持っている若手の内科医や小児科医が見ることで、勉強意欲に繋がるかもしれない。
事務局	本日は長時間御参加いただきありがとうございました。これで、令和5年度アレルギー疾患医療連絡協議会を閉会とする。 6 閉会

以上